

東桜コンピテンシー2019 「①ビジョン」について ～その4～

①「ビジョン」

数年～数十年単位の中長期的な目標として、望ましい社会や理想とする自分の姿を思い描く力。

(i)「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」

さて、今回も、SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」について話をしたいと思います。

今回、取り上げるのは「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」です。

以下に、国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所のHPの内容を掲載します。

すべての人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

1990年から2010年にかけて、新たに17億人が電力を利用できるようになりましたが、世界人口が拡大し続ける中で、安価なエネルギーに対する需要も増えることとなります。化石燃料に依存し、温室効果ガスの排出量増大をもたらすグローバル経済は、私たちの気候システムに大きな変化をもたらしています。この変化は、目に見える形で世界中に影響を及ぼしています。



しかし、代替エネルギーの利用を促す新たな潮流が生まれており、2011年には、再生可能なエネルギーが全世界のエネルギー供給の20%以上を占めるようになりました。とはいえ、今でも5人に1人が電力を利用できておらず、需要が増え続ける中で、全世界で再生可能エネルギーの生産を大幅に拡大する必要が生じています。

2030年までに手ごろな電力を完全に普及させるためには、太陽光や風力、地熱などのクリーンなエネルギー源に投資しなければなりません。また、さらに幅広い技術について費用対効果の評価を導入すれば、建物や産業での電力消費量を全世界で14%削減できる可能性もあります。言い換えれば、中規模発電所約1300か所の建設が不要になるのです。すべての開発途上国でインフラを整備し、クリーンなエネルギー源を提供できる技術を改善することは、成長を促しつつも環境保全を図るうえで不可欠な目標です。

私が、近年、再生可能エネルギーについて注目しているのは、以前は課題と言われていたコストの問題が大きく改善されてきている点です。

例えば太陽光発電の場合、コストは非常に下がってきています。太陽光発電のプロジェクトにおいては、メキシコで4円/kWh、チリで3円/kWh、ドバイやサウジアラビアに至っては2円/kWhなど、極めて低コストの水準で入札が行われたと聞きます。これは、国の試算（2014年時点）による1kWhあたりの他の発電コスト

(石油を使った火力発電の約30円以上、天然ガスを使った火力発電の13.7円程度、石炭を使った火力発電の12.3円程度、原子力発電の10.1円程度)と比較しても有利なコストになっています。

また、風力発電など、ほかの再生可能エネルギーについてもコストは下がってきており、将来的にはガス・石油・石炭の市場200兆円が消え去るのではないかという説も出てきているほどです。化石燃料の燃焼による地球温暖化の問題、原子力発電による高レベル放射性廃棄物の処理の問題などを考えれば、ますます再生可能エネルギーに対する期待は高まるばかりです。

今日は、最後にイチローさんの言葉を掲載します。

やってみて「ダメだ」とわかったことと、はじめから「ダメだ」と言われたことは、違います。

そりゃ、僕だって勉強や野球の練習は嫌いですよ。
誰だってそうじゃないですか。
つらいし、大抵はつまらないことの繰り返し。
でも、僕は子供のころから、目標を持って努力するのが好きなんです。
だってその努力が結果として出るのうれしいじゃないですか。

壁というのは、できる人にしかやっこない。
超えられる可能性がある人にしかやっこない。
だから、壁がある時はチャンスだと思っている。

令和2年(2020年)3月